

市事調第16号
平成29年3月21日

京都市会議長 津田 大三 様

市会改革推進委員会
委員長 寺田 かずひろ

市会改革推進委員会報告書

この度、市会改革推進委員会では、平成29年2月14日（第18回）及び同年3月10日（第19回）の委員会において、下記の項目について、別添のとおり検討結果を取りまとめましたので、御報告いたします。

記

- 1 京都市会基本条例の検証・評価の実施手法
- 2 投票率向上に向けた取組

市会改革推進委員会における協議結果について

1 京都市会基本条例の検証・評価の実施手法

【検討趣旨】

京都市会基本条例第 3 2 条において、同条例の施行後、同条例の目的が達成されているかどうかについて検証することを定めている。

そこで、平成 29 年度から個別具体的な検証・評価の取組を進めていくことを見据え、平成 28 年度中にその実施手法を検討する。

【委員会での結論】

委員会で確認した実施手法（別紙 1）に基づき、平成 29 年度に市会改革推進委員会において京都市会基本条例の検証・評価を実施する。

2 投票率向上に向けた取組

【検討趣旨】

前任期の本委員会における取組や、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられることが決定されたことなどを踏まえ、投票率向上に向けて市会として実施すべき取組について検討する。

【委員の主な意見】

<生徒・学生と議員による意見交換の場の設定に係る意見>

高校生との意見交換会実施前の意見

- ・ 議会として小中高生と意見交換を行う場を設けることが考えられる。
- ・ 特定の政策課題に関する高校生や大学生とのワークショップの開催を検討してはどうか。
- ・ 対象を中学生とし、将来の有権者に対して議会活動と市民生活との関わりなどについてコミュニケーションを取ることで、相互理解が深まるのではないか。
- ・ 直近の有権者である高校生や未来の有権者であり、社会の仕組みをこれから学んでいく中学生を対象に、議会として学校に出向き、学生との意見交換を行う場を設けてはどうか。
- ・ 時期を考慮したうえで、年 1、2 回程度、学生と議員が飲食を交えて交流を深める取組を京都市会として実施してはどうか。
- ・ スポーツ活動や懇親会等を通じて、気軽な形で交流することも考えられる。若い世代の人たちに政治を身近に感じてもらえるよう、何らかの形で取組を進めていければと考える。
- ・ 地域のことをテーマに、高校生と意見交換を行う場を設けてはどうか。

高校生との意見交換会実施後の意見

- ・ 継続的に実施し、生徒にそのような取組があることを知ってもらうだけでも投票率の向上につながることを期待されることから、何らかの形で継続的に取り組んでいきたい。
- ・ 今後実施する場合、対象者や実施手法等については、その時々で柔軟に対応すればよいのではないか。
- ・ 議会及び参加者にとって、過度な負担とまらない範囲で実施していくべきである。
- ・ 高校生のみならず、広く一般市民も対象とすべきである。
- ・ 教育段階において政治に関心を持ってもらうことが求められる。投票年齢が近づいてくる高校生を対象に、年1回程度実施すべきである。
- ・ 継続的な開催ができるようにするため、年1回は実施するとすべきである。
- ・ 実施回数を決めてしまうと、それに拘束されてしまい、本来の目的を見失ってしまう恐れがあるのではないか。
- ・ その時々状況に合わせて実施していけばよい。

<既存の取組（市民が議会のことを知ることができる取組）の充実に係る意見>

- ・ 新たなことに取り組むことを前提に考えるのではなく、既存の取組を充実させることも必要である。
- ・ 親子ふれあい議場見学会や議場見学の充実など、既存の取組の強化を図っていくべきである。
- ・ 費用対効果を考えると、数十名の子どもに対して参加を呼び掛ける子ども議会を実施するよりも、幅広く呼び掛けて、議場見学に来てもらうことに取り組むべきである。
- ・ 小学校6年生は、政治と自分たちの暮らしに関する学習を行っているため、小学生の議場見学も有効ではないか。
- ・ 小中高生による本会議の傍聴を促進してはどうか。
- ・ 議場見学会を実施する際には、臨場感あふれる議論がなされている市長総括質疑の傍聴を取り入れてはどうか。
- ・ 議会での議論の臨場感が伝わる委員会ネット中継の視聴促進を図るべきである。

<その他の意見>

- ・ 若い世代に議会に関心を持ってもらえるような取組が必要である。
- ・ 若い世代に対して、地域の身近な政治や行政に関心を持ってもらえるよう働きかけていく必要がある。
- ・ 若者が主体的に政治や選挙に関わっていくことができるよう、議会・議員がフォローをするという観点から取組を検討すべきである。
- ・ 高校生のときに政治への関心を高めてもらうことで、その後の人生においても積極的な投票行動をとることが期待され、ひいては投票率の向上につながることを考えられるため、高校生に対する取組は有益である。
- ・ 主権者の政治への関わりを幼い頃から学ぶ場として、子ども議会を開催して

はどうか。

- ・ 子ども議会を開催する場合は、政治参加に対する意識付けという観点で、小中学生を対象にすることが考えられる。
- ・ 選挙権年齢が引き下げられたこと踏まえ、新有権者の政治意識を高めるという観点から、青年議会を実施してはどうか。

【委員会での結論】

高校生をはじめ、若い世代の方々と京都市会が直接意見交換を行う場を設けることは、政治や地方議会に対する理解を深め、ひいては市民の政治参加や投票率の向上に寄与することが期待されることから、京都市会として、このような場を積極的に設けていくべきである。

なお、このような場を設けることについて具体的に検討される際には、本委員会で示された、実施手法に関する委員長試案（別紙2）も参考にされたい。

〔参考〕協議過程において実施した特徴的な取組

○ 「第11回 京都から発信する政策研究交流大会」学生企画の開催

（平成27年12月6日）

公益財団法人大学コンソーシアム京都が主催する「第11回 京都から発信する政策研究交流大会」の中の学生企画において、「若者の政治参加を考える」をテーマに、学生56名と市会改革推進委員9名による意見交換会を開催した。

開催結果は、別紙3のとおり。

○ 委員会における龍谷大学の学生との意見交換（平成28年3月25日）

若者の政治参加や投票率向上に取り組む龍谷大学の学生4名（同大学政策学部「伏見区投票率向上プロジェクト」の学生）を委員会に招致し、活動報告及び提案を聴取するとともに、意見交換を行った。

詳細は、別紙4のとおり。

○ 委員会におけるNPO法人YouthCreate代表原田謙介氏からの意見聴取

（平成28年5月24日）

若者の投票率向上に向けて様々な取組をされているNPO法人YouthCreate代表の原田謙介氏を委員会に招致し、意見聴取を実施した。

詳細は、別紙5のとおり。

○ 委員会における龍谷大学の学生等との意見交換（平成28年9月21日）

平成28年7月に執行された参議院議員通常選挙において、龍谷大学構内の期日前投票所の設置・運営に関わっておられた同大学の学生8名（同大学学生団体「Ryu-Vote」の学生）及び同大学政策学部教授の土山希美枝氏を委員会に招致し、取組結果の報告を聴取するとともに、意見交換を行った。

詳細は、別紙6のとおり。

○ 京都市立高校生と京都市会議員による意見交換会の開催

(平成28年12月27日)

「観光政策」をテーマに、市立高校生34名と議員15名(市会改革推進委員
全員)による意見交換会を試行実施した。

開催結果は、別紙7のとおり

京都市会基本条例の検証・評価の実施手法

1 評価の種別

自己評価

考え方

まずは自己評価のみとし、市民評価及び第三者（学識者等）評価を実施するかどうかについては、将来的に必要なに応じて検討する。

2 検証・評価の実施頻度

まずは平成29年度に一度実施することとし、それ以降については、当該結果を踏まえ、必要なに応じて実施する。

3 検証・評価の対象とする条文

全条文（ただし、条文の性質に応じて協議の進め方を変える。）

考え方

条例には、①市会や議員の役割等について定めた理念的な条文、②具体的な取組について定めた条文、③京都市会の決まりごとを定めた条文（（例）会派は2人以上の議員で構成すること）、④他の条例に規定していることのみを定めている条文など、性質の異なる条文があることから、全ての条文が一概に検証・評価の対象としてなじむものではない。そのため、具体的な実績に基づいて評価しやすい②について協議することを基本に、①、③及び④については、見直し等の意見を含め、所感等を聞くにとどめる。

また、新たに条例に規定すべき内容があるかどうかについても意見を聞くこととする。

4 検証・評価作業の進め方

評価シートに基づき、各会派において評価内容の検討、取りまとめを行った後、それを基に市会改革推進委員会で協議を行い、評価結果を取りまとめる。

5 評価シート

評価項目ごとに評価シートを準備する。

※ 内容が密接に関係する条文については、章単位又は内容ごとに一定の評価項目にまとめたうえで検証・評価する。（評価項目は別紙1-1のとおり）

(1) 評価シートA【別紙1-2のとおり】

取組実績に基づいた検証・評価がなじまない（又はできない）評価項目に関し，所感等を確認するための評価シート

(2) 評価シートB【別紙1-3のとおり】

取組実績に基づいて検証・評価を行うために用いる評価シート

(3) その他

評価シートは，各会派において評価を取りまとめるに当たって活用するものである。

6 評価結果の取扱い

到達が不十分な項目については，原因を分析し，対応策を検討する。この場合，評価段階においては検討課題を提示することとどめ，対応策については，評価後にそれぞれ検討する。

また，評価の結果，条文の見直しの必要性が生じた場合は，条例改正を行うこともあり得る。

考え方

評価を行うこと自体が目的ではなく，議会活動の改善サイクルを循環させることが目的であることを考えると，当然ながら，取組が不十分なものについては対応策を検討し，改善につなげていくことが求められる。

7 評価結果の公表

市会ホームページ等で評価結果を公表する。

考え方

条例で市会が市民に約束した内容がどのようになっているかを明らかにするため，市会ホームページ等で評価結果を公表する。

評価項目

1 評価シート A を活用するもの

評価項目	条文	条文内容
前文	—	—
総則	第 1 条	目的
	第 2 条	基本理念
市会の位置付けと役割	第 3 条	市会の位置付けと役割
	第 4 条	市会改革
議員の位置付けと役割	第 5 条	議員の位置付けと役割
	第 6 条	政治倫理
	第 7 条	会派
市民と市会との関係	第 8 条	市民との関係の構築
	第 9 条	市民との情報共有及び市民の市政への参画の機会の充実
市会と市長等との関係	第 16 条	市長との関係
	第 17 条	監視機能の充実及び強化
	第 18 条	市会の議決に付すべき事件等
議会運営の原則等	第 20 条	委員会
	第 21 条	会議等における質疑又は質問
政務活動費	第 26 条	政務活動費
議員の定数及び議員報酬等	第 29 条	議員の定数
	第 30 条	議員報酬等
補則	第 31 条	他の条例等との関係
	第 32 条	条例の検討

2 評価シートBを活用するもの

評価項目	条文	条文内容
(市民と市会との関係)		
請願及び陳情の取扱い	第 10 条	請願及び陳情の取扱い
公聴会及び参考人の制度の活用	第 11 条	公聴会及び参考人の制度の活用
会議等の公開及び広報の充実	第 12 条	会議等の公開の推進
	第 13 条	会議等の公開の方法
	第 14 条	広報の充実
広聴の充実	第 15 条	広聴の充実
(議会運営の原則等)		
会期	第 19 条	会期
(市会の権能強化)		
学識者等の活用等による市会の権能強化	第 22 条	専門的な知見の活用
	第 23 条	調査機関等の設置
	第 24 条	政策研究会の設置
他の地方公共団体の議会との連携	第 25 条	他の地方公共団体の議会との連携
事務局・図書室機能の強化	第 27 条	事務局
	第 28 条	図書室

評価シートA

評価項目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>内容が密接に関係する条文は、章単位など、一定の評価項目にまとめたうえで検証・評価する。</p> </div>	
関係条文及び条文の趣旨・解説	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>評価項目に関係する条文及びその条文の趣旨・解説を記載。</p> </div>	
評 価		<p>1 十分できている 2 そこそこできている 3 できていない 4 その他</p>
<p>【評価理由】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取組状況を踏まえ、評価を番号で記入。 ・ 評価の理由を記入。 </div>		
条文改正の必要性		<p>1 有 2 無</p>
<p>【「有」の場合は、改正内容及び改正が必要な理由】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 条文改正の必要性について番号で回答。 ・ 条文改正の必要があると回答された場合は、改正内容及び改正が必要な理由を記入。 </div>		
備 考	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 60%;"> <p>特筆すべき事項があれば記入。</p> </div>	

※ 網掛け部分について各会派で記入

評価シートB

評価項目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>内容が密接に関係する条文は、一定の評価項目にまとめたうえで検証・評価する。</p> </div>	
関係条文及び 条文の趣旨・ 解説	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>評価項目に関係する条文及びその条文の趣旨・解説を記載。</p> </div>	
評 価		<p>1 十分できている 2 かなりできている 3 そこそこできている 4 あまりできていない 5 できていない 6 その他</p>
<p>【評価理由】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 20px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取組状況を踏まえ、評価を番号で記入。 ・ 評価の理由を記入。 </div>		
条文改正の 必要性		<p>1 有 2 無</p>
<p>【「有」の場合は、改正内容及び改正が必要な理由】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 20px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 条文改正の必要性について番号で回答。 ・ 条文改正の必要があると回答された場合は、改正内容及び改正が必要な理由を記入。 </div>		
備 考	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 20px auto; width: 60%;"> <p>特筆すべき事項があれば記入。</p> </div>	

※ 網掛け部分について各会派で記入

取組実績

評価項目	
	<div data-bbox="327 790 1262 969" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px;"><ul style="list-style-type: none">・ 評価項目に関連する取組実績（概況や数値等）を記載。・ 実績の基準時期は、平成26年3月末（条例施行前）と平成29年3月末とする。</div>

生徒と議員による意見交換の場の設定（委員長試案）

1 目的

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを踏まえ、若い世代に京都市会を身近に感じてもらい、主権者として政治参加への意識を高めてもらうことを目的とする。

2 対象

中学生及び高校生

3 開催場所

学校又は京都市会

4 実施時期

市会の集中審議期間外

5 テーマ

生徒にとって身近なことを題材にする。

→ 学校が所在する地域に関わること、学校の特性に関わること、その時々
の常任委員会で特に話題になっていることなど

6 実施方法

【パターン1】 学校からの要請に応じて実施

- ・ 学校側から要請があれば、随時、生徒と議員による意見交換の場を設ける。
- ・ 教育委員会と連携して、各学校に広く周知する。
- ・ 開催場所は、学校側が選択できることとする。
- ・ テーマは、その都度、学校と調整のうえ決定する（学校側の希望があればできる限りそれに応じることとし、希望がない場合は、京都市会から案を提示する。）。
- ・ テーマに関するグループディスカッション・発表等を行う。
- ・ 京都市会に来てもらう場合は、議場見学等も併せて実施する。

【パターン2】 京都市会が参加者を募集して実施

- ・ 教育委員会と連携して、参加者を募集する。
- ・ 開催場所は、京都市会とする。
- ・ テーマは、その時々^の常任委員会で特に話題になっていることなどについて、京都市会があらかじめ設定する。
- ・ テーマに関するグループディスカッション・発表等を行う。
- ・ 議場見学等も併せて実施する。

7 試行実施

- ・ 上記6「パターン2」をベースに、市会改革推進委員で試行実施を行うこととする。
- ・ 対象は、高校生とする。
- ・ 実施時期については、平成28年度の冬休み期間中（年内）とする。

「第 11 回京都から発信する政策研究交流大会」学生企画の開催結果について

1 日 時

平成 27 年 12 月 6 日（日） 午後 3 時 30 分～午後 5 時

2 場 所

キャンパスプラザ京都 4 階 第 4 講義室

3 参加者

- 市会改革推進委員 9 名
寺田かずひろ委員長，吉田孝雄副委員長，橋村芳和委員，椋田隆知委員，
赤阪仁委員，加藤あい委員，中野洋一委員，大津裕太委員，宇佐美けんいち委員
- 学生 56 名
公募により集まった学生 47 名及び学生実行委員（司会・ファシリテーター）9 名

4 内 容

テーマ：「若者の政治参加を考える」

<意見交換会（グループディスカッション）の流れ>

- ① 参加者同士の自己紹介
- ② 議員に聞きたいこと，政治へのイメージを学生が書き出す。
- ③ ②で出てきた内容の共有・整理
- ④ ③で共有・整理した内容を基に，理想の政治像について意見交換
- ⑤ ④で出てきた意見について，各グループ発表

5 各グループの主な意見

【Aグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 分かりにくい
- ・ 若者の関心が低い。

<解決策>

- ・ 議員による情報発信を強化する。
- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。

【Bグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 若者の投票率が低いのは，超高齢社会が進む中で，高齢者に対する施策ばかりが手厚くなっており，若者は投票に行っても自分たちに恩恵がある施策は実現されていないと感じているからではないか。

<解決策>

- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。

【Cグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 分かりにくい。
- ・ メディアが否定的な報道しかしないことから、悪いイメージが先行している。
- ・ 政治教育において、「政治的中立性」と言うが、色を出さないことが政治的中立性という風潮があることから、自分の意見を言えないのではないか。

<解決策>

- ・ 教育の場において、政治に触れる機会を増やす。
- ・ 政治家との意見交換の場を設けるなど、政治を身近に感じられる環境を整える。

【Dグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 若者は政治参加しにくい。
- ・ 暗く、古い。

<解決策>

- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。
- ・ 学校教育の場において、「公共」というような新科目を設ける。
- ・ 被選挙年齢を引き下げ、若者にとって政治家を身近なものに感じさせる。
- ・ 議員の定年退職制度を導入する。
- ・ インターネットを通じた選挙運動を行う。

【Eグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 分かりにくい。

<解決策>

- ・ 政治家との意見交換の場を設ける。
- ・ 政治的中立性を確保したうえで、知識を身に付けられる教育を推進する。
- ・ 有権者である若者が主体的に情報を集め、行動する。

【Fグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 若者は、権利があるにもかかわらず、政治に対して主張しない。
- ・ 議員は、SNSなどを通じてやり取りすることもできるが、いまだ遠い存在である。

<解決策>

- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。

【Gグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 税金の使い道がよく分からない。税金が市民に還元されている実感がない。
- ・ 若者に対する施策が十分でないのではないか（高齢者に対する施策が多い）。
- ・ 政治家は、自身のイメージを向上させることに熱心な印象がある。

<解決策>

- ・ 税金の使われ方を知ってもらうため、SNS等で積極的に情報を発信する。強制的にでも目に触れられるようにする。
- ・ 就職支援や奨学金支援など、学生に対する施策を積極的に発信する。
- ・ 高校や大学などでも政治家との意見交換の場を設ける。
- ・ SNSによる情報発信を強化する。

【Hグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 政治は難しく、主張しても何も変わらないとの意識がある。
- ・ 政治参加は選挙だけだと思っている。

<解決策>

- ・ 自身の不満を政治に反映させる意識を持つことが大切である。
- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。

市会改革推進委員会における龍谷大学の学生との意見交換の実施結果について
(平成28年3月25日)

<報告・提案の要旨>

- ・ 伏見区投票率向上プロジェクト（発足時の名称は「Ryu-SEN@伏見区」）は、平成25年度から活動しており、これまでに、主に以下のような活動を行ってきた。
 - ① Facebook ページの開設
 - ② 京都府知事選挙における大手筋商店街でのフラッシュモブ
 - ③ 学生対象の政治に関するワークショップ
 - ④ 「議員と話そう in 京都」（市会改革推進委員4名とのワークショップ）
 - ⑤ 市立池田小学校での模擬選挙
 - ⑥ 「政治学入門（政治学）」（石田徹教授）での特別講義 など
- ・ 若者の政治意識や投票意識の向上に向けて、以下の企画を提案したい。
 - ① 「議会ツアー」
大学生10～20名を対象に、議場や議員団室の見学、市会の歴史の学習、委員会の傍聴、議員との意見交換会を実施。
 - ② 「わかもの意見交換会」
選挙人名簿から無作為抽出した18～24歳の市民を対象に、京都市政、若者の政治参加の促進、投票率向上の方策などをテーマに、議員とのグループディスカッションを実施。
 - ③ 大学内期日前投票所の設置
大学及び学生との連携の下運営される大学内期日前投票所を設置。

<委員の主な質問>

- ・ これまで選挙に行かれたことがあるかどうか、理由も含めて聞きたい。
- ・ 大学内期日前投票所の設置に関し、選挙管理委員会が示している課題について、どのように考えるか。
- ・ 大学入学時に、住民登録地を変更せず、そのままにしている学生が多いことが課題であるが、その点どのように感じているか。
- ・ どのような活動が若者の関心をひきつけると感じているか。

市会改革推進委員会における NPO 法人 YouthCreate 代表原田謙介氏からの
意見聴取の実施結果について
(平成 28 年 5 月 24 日)

<講演の概要>

- ・ YouthCreate のミッションは以下のとおりである。
 - ① 子ども・若者と政治が接する場を増やすこと
 - ② 子ども・若者が政治への知識を高める場を作ること
 - ③ 若者の政治参画を進めること
- ・ 上記活動に取り組むに当たっての視点は以下のとおりである。
 - ① 選挙からスタートしない方法を採用すること（「選挙に行こう」ではなく、選挙に行かせる動機付けが必要）
 - ② まちのこと、地域の政治に注目すること
 - ③ 政治は難しさ、真面目さだけではないことを伝えること
 - ④ 政治は双方向の場であることを伝えること
- ・ 具体的な取組として以下のことを実施している。
 - ① 「Voters Bar」
 - 新しいまちづくりの形として、まちの議員と若者が知り合い、語る場を全国で提供している。
 - ② 「中野区学生議会」
 - 地域に根差した政策プランコンテスト（高校生や大学生の 5 人程度の複数グループが 2 箇月間プランを検討）を実施し、優勝者は区長、行政担当者との意見交換などを行う。
 - ③ 成人式における模擬投票
 - 成人式において、成人代表と区長による対談の場を設け、その対談のテーマを模擬投票で決定する（投票することで未来が変わるということを体験してもらう。）。
 - ④ 「ASK NIPPON」
 - ツイッターを活用して若者と政治をつなぐ場を提供している。利用者は、ツイッターに投稿することにより立候補者や政党に質問することができる（全ての質問に対して返事があるわけではない。）。
 - ⑤ 子育て世代向けイベント
 - 比較的政治に関心を持ち始めることが多い子育て世代を対象とした各種イベントを実施している。
- ・ 2016 年は、「選挙権年齢が下がった年」ではなく、「若者の政治参画が始まった年」と語り継がれるようにしなければならない。
- ・ 選挙権年齢の引下げは、「若者に権利をプレゼントした」のではなく、「若者の力を必

要としている」から行ったものであり、若者の意識ではなく、社会全体の意識を変える必要がある。

- 各種機関が実施した調査において、以下のような結果が示された。
 - ① 「自国のために役に立つと思うようなことをしたい」と考えている日本人の若者は、諸外国の若者と比べても多いが、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」と考えている日本人の若者は、諸外国の若者と比べると少ない。
 - 参加すれば変えられるという仕組みづくりが求められる。
 - ② 「投票」に対する意識として、若者の約半数が「投票は自由」と考えている一方で、高齢者の約4割は「投票は義務」と考えている。
 - 投票行動を促す場合、若者と高齢者ではアプローチの仕方を変える必要がある。
 - ③ 約半数の若者が、政治のことがよく分からない者は投票しない方がよいと考えている。
 - 分からないなりに考えてもらうようにするなど、投票行動を促していく必要がある。
- 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることに伴い、各現場においては、若い世代に対して以下のような対応が求められる。
 - ① 学校現場での対応
 - 義務教育（小中学校）の間に何ができるかを考える必要がある。小中学生は授業の一環で地域に出ていく機会が多いため、そこに政治との関係性を見出すことが考えられる。
 - また、大学においては、全ての学生が投票できるようになることから、大学として何ができるかを考える必要がある。
 - 生徒会の場で、生徒同士に議論させ、結論を出させるなど、身近な社会で民主主義が経験できるような仕組みを作る。
 - 授業だけではなく、学校という日常のコミュニティの中で政治や選挙について話すことができるよう誘導する。
 - ② 家庭での対応
 - 親が、自身が考えている投票先などについて話すことで、子どもに政治や選挙に関心を持ってもらう。
 - 子どもが親に政治や選挙の話をすることで、親の投票意識を高めることにつながる。
 - ③ 地域での対応
 - 地域の話を持ち出すことにより、自分事として考える可能性がある。
 - まちの多世代の人々と話すことも、様々な意見を聞くことができるため有益である。

- ・ 若者の参画を進めるための視点とアクションは、以下のとおりである。
- ① 若者（18歳）の分類
 - 職業、経歴、居住状況などの違いがあることから、「若者（18歳）」をひとくくりに考えることはできない。そのため、何らかの企画を実施する場合は、しっかりと対象を絞る必要がある。
- ② 鍵は地域の政治
 - 地域の政治は人々の日常に近い存在であることから、それらに関する情報に触れる機会を増やす必要がある。また、そもそも地域のことについて知ってもらえるようにする必要がある。
- ③ 投票に限らず若者の参画を進めるきっかけ
 - 選挙のみならず、様々な機会を通じて若者が政治に参画できるようにする必要がある。
- ④ 議会として積極的に打って出ること
 - 各学校で議会広報誌を読んでもらうようにしてはどうか。
 - 議会として学校に出向いて行ってはどうか。
 - 議会として地域の若者の集まりに参加してはどうか。
- ⑤ 若者も一人前の人として対応すること
 - しっかりと自分なりの意見や考えを伝え、相手に考えさせる。
- ⑥ 変化を伝えること
 - 政治は変わらないものではなく、確実に動いているものであることを伝える。

<委員の主な質問>

- ・ この間、社会は大きく変わってきたが、若い世代の意識はどのように変わってきているか。
- ・ 地方行政に興味がない若者が多いが、授業等で訪れた学校での反応はどうか。
- ・ 安全保障法制に関わって若者が様々な活動をされているが、これは若者の政治参加が進んできていると捉えられるものなのか。
- ・ 高校生の政治活動の制限について、どのように考えているか。
- ・ 若者と直接対話をする場を設けるといっても、情報発信することができる対象は限られているため、広く発信するためにはどのような方法が有効と考えるか。
- ・ 有権者が投票に行きたくなるようにするためには、どのようなことが考えられるか。
- ・ 住民登録地を変更せず、そのままにしている学生が多いが、これについてどのような認識を持っているか。
- ・ 選挙権年齢は18歳以上に引き下げられるが、被選挙権年齢についてはどのように考えるか。

市会改革推進委員会における龍谷大学の学生等との意見交換の実施結果について
(平成28年9月21日)

<報告の要旨>

- ・ 平成28年3月の市会改革推進委員会において、「伏見区投票率向上プロジェクト」が龍谷大学構内への期日前投票所の設置を提案した際に目標としていたことは、以下の3点である。
 - ① 若い世代の投票率の向上
 - ② 投票所への物理的な距離を縮めること
 - ③ 「投票に行こう」という心理を作りやすくすること
- ・ 市会改革推進委員会で提案した後、大学側と京都市選挙管理委員会において検討を重ねた結果、7月に執行された参議院議員通常選挙において、同月7日と8日の2日間、モデル実施として、龍谷大学構内に期日前投票所を設置することとなった。運営には、学生と教職員が主体となり携わった。
- ・ 期日前投票所の設置決定後、参院選を盛り上げていくため、「伏見区投票率向上プロジェクト」などのメンバーを中心に、龍谷大学の有志の学生により構成された団体「Ryu-Vote」を結成した(総勢34名所属)。
- ・ 「選挙を楽しもう」をコンセプトに、「Ryu-Vote」は以下の3つの取組を実施した。
 - ① 選挙盛り上げ隊
 - イベント実施, インスタグラム活用, チラシ配布などを通じた広報活動を実施
 - ② 投票済みで証で何かいいコト班
 - 期日前投票に訪れた人に投票済み証, 感謝証を配布し, 近隣店舗で割引等のサービスを提供
 - ③ 不在者投票支援ブース
 - 不在者投票制度の説明を行うとともに, 封筒・切手を用意のうえ, 書類作成の手助けを行うブースを設置
- ・ 期日前投票所の設置・運営結果を踏まえた成果及び反省点は以下のとおりである。

成果

- ① 投票に行く, 選挙に興味を持つきっかけとなれた。
- ② 地域の投票の利便性の向上に役立てた。

反省点

- ① 学生の投票者数が少ないという批判もある数字(40名)となった。
 - ただし、「Ryu-Vote」の立上げ自体が参院選の直前(約1箇月前)となり, また, メンバーの活動時間も極めて制限されていたという状況もあった。
- ② 選挙や政治に対して学生の関心をひくことの難しさを改めて実感した。
- ③ 選挙や政治に関心を持ってもらうきっかけにはなったが, きっかけづくりにと

どまった。

→ 日常的に政治に関心を持たれるための取組が必要であると感じた。

<委員の主な質問>

- ・ 学生の投票者数が40人にとどまったことに対してどのように考えるか。
- ・ 期日前投票所の設置期間に制約がなければ、学生の投票者数は更に伸びていたと考えるか。
- ・ 投票者に対して近隣店舗で使える割引券を配布するなど、インセンティブを促進することで投票者数が増えると考えるか。
- ・ 今回の参院選で、19歳よりも18歳の人の投票率の方が高かった理由をどのように考えるか。
- ・ 龍谷大学の学生と接する中で、伏見区ないし京都市に住民票がある学生の割合はどの程度であったか。
- ・ どのようにすれば学生が住民登録を京都市に移しやすいと考えるか。
- ・ PRチラシを受け取った人たちの反応はどうだったか。また、Instagramを活用した取組の反響はどうだったか。
- ・ 活動を通じて、今後、どのようなことが求められると感じたか。

京都市立高校生と京都市会議員による意見交換会の開催結果について

1 日 時

平成28年12月27日（火） 午後1時～午後3時45分

2 場 所

市会第5会議室及び本会議場

3 参加者

- 市立高校生 34名

＜参考＞内訳

- ・ 学校別：堀川11名，西京8名，銅駝美術工芸7名，紫野5名，京都工学院3名
- ・ 学年別：1年生16名，2年生17名，3年生1名
- ・ 男女別：男21名，女13名

- 市会改革推進委員 15名

4 プログラム概要及び運営体制

- 開会挨拶【寺田委員長】

- 高校生代表による挨拶

- 市会及び議員の活動内容の紹介【平山副委員長】

- グループディスカッション ＜テーマ：「観光政策」＞

- | | |
|--------------------|---|
| グループ1：鈴木副委員長，加藤委員☆ | 小テーマA
「魅力ある新たな観光メニューを作成しよう。」 |
| グループ2：田中委員☆，西村委員 | |
| グループ3：橋村委員，西山委員☆ | 小テーマB
「リピーター増加に必要な要素とそれを踏まえた取組を考えよう。」 |
| グループ4：椋田委員，中野委員☆ | |
| グループ5：吉井委員，こうち委員☆ | 小テーマC
「市民も観光客も共に快適に過ごせるために必要な要素とそれを踏まえた取組を考えよう。」 |
| グループ6：赤阪委員，大津委員☆ | |
- ※ ☆印が付いている委員がファシリテーター

- 各グループによる発表

- 各グループの発表内容に対する講評【寺田委員長】

- テーマに関する会派の見解の発言【自民：椋田委員，共産：西村委員，公明：西山委員，民進：中野委員，維新：こうち委員，京都：大津委員】

- 議長挨拶【津田議長】

- 議場についての説明【市会事務局総務課長】

- 議員への質問タイム【寺田委員長ほか】

- 高校生代表による挨拶

- 閉会挨拶【井坂副委員長】

5 グループディスカッションにおける各グループの発表内容

【グループ1】（小テーマA：「魅力ある新たな観光メニューを作成しよう。」）

- ・ 京都駅（市内中心部）における公共交通機関の混雑を解消するため、山科駅の活用，東西線の利用促進，市内中心部を避けたバス路線の充実など，京都駅の役割を市内周辺部に分散させ，観光客及び市民にとって利用しやすいようにする。
- ・ 大阪への観光客が京都にも来てもらえるような仕組みを構築し，近畿全体の活性化を図る。
- ・ 京都には，寺社仏閣以外にもたくさんの魅力がある。観光客を穴場スポットに誘導することにより，混雑を分散させることができるとともに，京都のことを深く知ってもらうことができる。
- ・ 付きっきりで案内するガイドを設けることにより，京都に親しみを持ってもらえる。

【グループ2】（小テーマA：「魅力ある新たな観光メニューを作成しよう。」）

- ・ 京都には，子どもが楽しみにくい，観光地が固定化しているという課題がある。これらの課題を解消するため，以下2点について提案する。
 - ① 京都市の一日ツアー券の作成
市バス，京都バス，地下鉄などの交通費を無料にするとともに，市が指定した観光地での入場料や拝観料を無料にし，穴場スポットにも足を運んでもらえるようにする。
 - ② 京都が誇るアニメやゲームなどの資産の有効活用
子どもが楽しめるようにするとともに，アニメに興味を持っている外国人観光客にももっと京都に来てもらい，有名な観光地だけでなく，聖地巡礼と呼ばれる様々な場所を巡ってもらえるようなツアーを設ける。

【グループ3】（小テーマB：「リピーター増加に必要な要素とそれを踏まえた取組を考えよう。」）

- ・ 外国人観光客のリピーターが多い国は，東アジアに多いことから，これらの人たちがまた来たいと思えるような取組を進める。
- ・ 京都の四季折々の文化を利用した体験事業を充実させる。
- ・ 観光シーズンは交通機関の混雑や宿泊施設不足など，キャパシティの問題が生じるため，閑散期に訪れてもらう取組を充実させ，観光客の分散化を図ることで，結果として観光客の満足度を向上させることにつながる。
- ・ 夏に金閣寺を訪れた観光客に，冬の金閣寺のポスターを見せることにより，「冬もまた来たい」と思わせたり，外国人観光客が通常入ることができない小学校を開放するなど，魅力を感じさせる取組を行う。

【グループ4】（小テーマB：「リピーター増加に必要な要素とそれを踏まえた取組を考えよう。」）

- ・ 外国人観光客に興味を持ってもらいやすいような京都らしいデザインのうちわにマナーを記載することによって，マナー啓発だけでなく，気持ちよく観光してもらうことができ，リピーターの増加につながるのではないだろうか。
- ・ 複数ある同じ名称のバス停を一つに集約するなど，公共交通機関を利用するうえで

の煩雑さを解消する。

- ・ 学生等が外国人観光客に対して、自分が住む地域について案内することができるよう、語学等のスキルを身に付け、案内・交流することにより、友情への発展が期待できる。

【グループ5】（小テーマC：「市民も観光客も共に快適に過ごせるために必要な要素とそれを踏まえた取組を考えよう。」）

- ・ 公共交通機関の利用に際し、観光客だけでなく、市民に対してもモラルを呼び掛け、改善を促す。
- ・ 公共交通機関の混雑を避けるため、徒歩を利用した観光を積極的に進める。また、観光客向けのバスや市民向けのバスなど、利用目的に合わせてバスを区分けする。
- ・ 世界には数えきれないほどの言語数があることから、ピクトグラム（絵文字）を活用した案内や標識を積極的に設ける。これは、防災面での効果も期待できる。

【グループ6】（小テーマC：「市民も観光客も共に快適に過ごせるために必要な要素とそれを踏まえた取組を考えよう。」）

- ・ 観光客の分散化を図るため、観光客が山城地域などにも訪れるよう、エリアを拡大した取組を進める。
- ・ 地方のゲストハウスなどを活用し、観光客を地方の穴場スポットへ誘導することにより、観光客の分散化を図ることができるとともに、地方の活性化にもつなげることができる。
- ・ 公共交通機関の利便性を高めるため、スマートフォンのアプリを活用して効果的に情報を発信する。
- ・ 多様な観光プランを用意することにより、観光客の満足度を向上させ、リピーターの増加につなげる。

6 アンケート結果

参加者34名のうち33名からアンケートを提出いただいた。

【回答結果】 ※以下、割合については、端数処理の関係で合計が100%とならない場合がある。

○ **意見交換会に参加したきっかけ（複数回答可）**〔回答件数：54〕

京都市会や議員に関心があった	8名（24%）
政治に関心があった	13名（39%）
政治に関心を持とうと思った	5名（15%）
先生に薦められた	23名（70%）
その他	5名（15%）

○ グループディスカッションのテーマ設定

満足	16名（48%）
やや満足	14名（42%）
どちらでもない	1名（3%）
やや不満足	2名（6%）
不満足	0名（0%）

<理由>

・「満足」

1	それぞれが居住地の現状についてしっかりとした意見を持って望めるテーマで良かった。
2	自分が気付かなかった視点からの意見を知ることができた。
3	京都と観光産業は密接に関わっていると思うから。
4	時間は足りなかったが充実していた。
5	身近なテーマだったので、具体的に考えることができた。
6	色々な話を聞いた。
7	色々な想像ができる内容だったから。
8	自分たちの学んでいることと「観光」というテーマがマッチしている。
9	まちづくりを学ぶうえで、住民と観光客のどちらについても考えないといけないと思ったから。
10	観光は京都市の大きな収入源であり、それについて学べる機会だったため。
11	テーマを3つに分けることで、議論をそれに沿わせることができたから。
12	高校生の自分たちも考えやすいテーマで良かった。
13	観光客と市民との関係性に興味を持っていたのでとても良い機会になった。
14	観光の問題は様々な問題の総合的なものだ聞き、このテーマ設定がとても良いものだと感じた。

・「やや満足」

1	テーマを3つに分ける必要はなかったかもしれないと思った。
2	自分たちにとって身近であり、日々考えていることを話すことができて良かった。
3	少しテーマの幅が広すぎて議論が深まらなかった。
4	もう少し多様であれば良かった。
5	小テーマに分けず、「観光政策」で統一した方が良かった。
6	市民として意見を言いやすかったから。
7	現状を知ることができた。
8	話しやすかったから。
9	3テーマとも全て似たようなものだったので、3テーマ全てを違う分野にする

	か、1つにまとめてもいいのではないかと思った。
10	現実味があって良い。
11	議員や他校の生徒と深く議論できたから。

・「やや不満足」

1	自分が不得意なテーマだったから。
2	市内在住ではないので、友人からの意見を頼りに考えるのは難しかった。

○ グループディスカッションにおける議論の進め方

満足	16名（48%）
やや満足	13名（39%）
どちらでもない	0名（0%）
やや不満足	2名（6%）
不満足	2名（6%）

<理由>

・「満足」

1	時間の使い方がとても良かった。
2	生徒の各意見に対し、しっかりと受答えをしてもらえた。
3	分かりやすかった。
4	みんなの意見がたくさん聞け、自分の意見も出しやすかった。
5	スムーズに議論できた。
6	楽しくできた。
7	みんなの意見がユニークで、また共感でき、新鮮だった。
8	話しやすかった。
9	全員がしっかりと話すことができたから。
10	初対面の方々の中でしっかりと発言できたのは、進行の流れに沿えたからだと思う。
11	議員の絶妙なファシリテートにより、生徒中心でしっかりと話し合えたから。
12	時間が短かったという印象が残っているが、高校生主体で話を進めていくことができて良かった。

・「やや満足」

1	時間が少し短かったため、十分に議論しきれなかった。
2	時間がなかったこともあり、しっかりと意見をグループでまとめることができなかった。
3	楽しく話すことができ、白熱しがちな議論をまとめてくれたので良かった。
4	時間が足りなかった。

5	至って普通。
6	だらだらしていなかったから。
7	議論の時間と成果物の作成時間とを分けた方が良かったと思った。
8	みんな熱く話ってくれたので楽しかった。
9	議員がうまくリードしてくれ、気軽に意見を出すことができた。

・「やや不満足」

1	途中で議論が止まってしまった。
2	議論の時間があまり取れず、他の人の意見を完全に理解しないまま終わってしまったから。

・「不満足」

1	高校生がほとんどしゃべることができなかった。
2	生徒対生徒ではしっかりと意見交換ができていたものの、議員対生徒では十分にできていなかった。また、時間も短く感じた。

○ 意見交換会全体の時間の長さ

長い	0名 (0%)
どちらかといえば長い	6名 (18%)
ちょうどよい	14名 (42%)
どちらかといえば短い	7名 (21%)
短い	6名 (18%)

○ グループディスカッションの時間の長さ

長い	0名 (0%)
どちらかといえば長い	0名 (0%)
ちょうどよい	2名 (6%)
どちらかといえば短い	16名 (48%)
短い	15名 (45%)

○ 議員への質問の時間の長さ

長い	3名 (9%)
どちらかといえば長い	1名 (3%)
ちょうどよい	26名 (79%)
どちらかといえば短い	3名 (9%)
短い	0名 (0%)

○ 意見交換会の満足度

満足	15名 (45%)
やや満足	15名 (45%)
どちらでもない	0名 (0%)
やや不満足	3名 (9%)
不満足	0名 (0%)

<理由>

・「満足」

1	議員だけでなく、他校の高校生の考えも知ることができ、良かった。
2	知らない世界を知ることができた。
3	めったにない機会で、貴重な経験ができたため。
4	色々と知ることができた。
5	楽しく議論ができて、いろいろな意見が聞けたから。
6	他校の生徒の考え方も知ることができ、とても良い経験になった。
7	発言しきれなかった部分はあったが、たくさんの意見が出たから。
8	自分の提案を受け止めてもらえたと感じたため。
9	みんなの意欲があったので、とても濃い話ができた。
10	自分たちの考えが届いているんだということがものすごく実感できて、とてもうれしかった。

・「やや満足」

1	グループの意見をまとめることができたので良かった。
2	グループで議論した内容について、もっと深く聞いてみたいと思った。
3	色々な話を聞くことができ、自分の話もできたので楽しかった。
4	議論が中途半端に終わってしまった。
5	時間が足りなかった。
6	色々と知ることができた。
7	ディスカッションがあまりできなかつた。でも議場に入れて楽しかった。
8	自分の意見をしっかりと言えた。
9	多くの意見を聞くことができたが、少し時間が短いと感じた。
10	観光という大きなテーマで、意見の集約は難しかったが、とても有意義であった。
11	議員や市会について理解を深めることができたが、更に詳しく知りたかった。
12	たくさんの意見が聞けたから。

・「やや不満足」

1	もっと意見交換がしたかった。議員と考えを戦わせたいと思った。
---	--------------------------------

○ 意見交換会への参加による政治や議会・議員に対する理解の深まり

理解が深まった	15名 (45%)
やや理解が深まった	18名 (55%)
どちらでもない	0名 (0%)
あまり理解が深まらなかった	0名 (0%)
理解が深まらなかった	0名 (0%)

<理由>

・「理解が深まった」

1	今までの市議に対するイメージが改まったと思う。
2	議員も人間なのだなと感じた。
3	おもしろい意見があり、新鮮だった。
4	議会、議員の雰囲気分かった。
5	議員の意見を聞いたから。
6	議員の話を生で聞いたから。
7	少し身近に感じる事ができたから。
8	遠い存在だったのが、近くを感じる事ができたので良かった。
9	議員とたくさんコミュニケーションが取れたから。
10	複数の議員と話をする時間があつたから。
11	もう少し話をしたかった。
12	自分の住む区の議員しか知らなかったが、皆さん精力的に活動されているのが伝わってきた。
13	遠すぎる存在だと思っていたが、自分の考えが現実になりうるという事を理解できた。
14	議員に対するステレオタイプなイメージが180度変わって、政治を任せられるなど感じた。

・「やや理解が深まった」

1	普段接することのない議員と話す事ができたから。
2	自分だけかもしれないが、「観光政策」という面のみでとどまってしまったような感じがあつた。
3	少し身近に感じられるようになったと思う。
4	たくさんの質問に答えていただいた。
5	直接話をする時間がもう少しほしかった。
6	案外特別という感じはなかつた。
7	外から見ただけでは分からないことも、今日の意見交換会を通じて理解できたから。
8	観光以外にも色々知りたい。

9	意外な一面が見られた。
10	今まで遠い存在に感じていたのに、少し親近感を感じることができ、どのようなことをしているのかも知ることができたから。
11	政策に関してはとても深く理解できたが、政治や議員に対して理解が深まったかと言われるとそこまでではない。

○ 今後も何らかの形で意見交換会が開催された場合、参加したいと思うか。

はい	31名 (94%)
いいえ	1名 (3%)
無回答	1名 (3%)

<理由>

・「はい」

1	自分の見識を広めるため。
2	今回の意見交換会で多くのことを学べたから。
3	自分が気付けなかったたくさんの意見をもっと聞いてみたい。
4	グループディスカッションが楽しかったため。
5	時間さえあれば。
6	他校の生徒と話すことは非常に有意義だと思うから。
7	よりたくさんの人と意見交換したい。
8	有意義だったため。
9	他人の意見を聞いて良かったから。
10	興味があるから。
11	行って良かったと思えたから。課題が見つかったから。
12	自分の意見が言えるテーマのときには是非参加したいと思う。
13	楽しかったため。純粋にもう一度参加したいと思った。
14	非常に良い機会になるから。
15	次はもっと発言できたらいいなと思ったから。
16	他の人の考えを知れる良い機会になると思うから。
17	いろんな学校の人の意見を聞いて勉強できた。
18	今日の意見から更に深めたい。
19	今日、自分が用意してきた課題に答えを見出すことができ、成長が実感できたから。
20	是非。

・「いいえ」

1	特に聞くことがない。
---	------------

○ **選挙権を得たら投票しようと思うか。**

投票しようと思う（前から思っていた）	31名（94%）
投票しようと思う（意見交換会を通じて考えが変わった）	0名（0%）
投票しようと思わない	0名（0%）
分からない	2名（6%）

<理由> ※「投票しようと思わない」又は「分からない」と回答した場合のみ記載
・「分からない」

1	メリットが分からない。
2	投票以外で行動するから。

○ **意見交換会の内容や実施方法等について、気付いた点**

1	全体で進め方をもう少し共有してもらえたらスムーズになると思う。あとは、もう少しディスカッションをしたかった。
2	意見交換ができたのは良い経験であったが、もう少し時間が長ければもっと良かったのではないかと思う。
3	議員主体だったので、思っていたものとは違った。もっと生徒にしゃべらせてほしい。